



POTEKAの前で説明を行う当社従業員

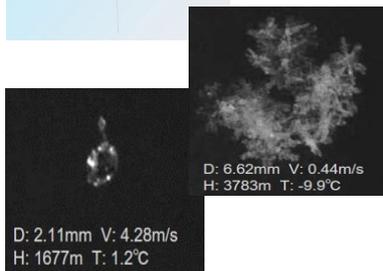
NHK総合 明日をまもるナビでPOTEKA紹介

NHK総合のテレビ番組「明日をまもるナビ『竜巻からどう身を守る』」に、POTEKAと当社従業員のインタビューが紹介されました。

番組の中で、気圧、気温、湿度など8つの気象要素が観測できるPOTEKAを1~2kmの間隔で設置することにより、稠密な気象観測網が構築でき、竜巻のような局地的な気象変化でも詳細にその姿を捉えられることが紹介されました。実際に、2013年に発生した群馬県みどり市の竜巻について、前兆から消滅に至る過程とその進路がPOTEKAの気圧観測データによって明らかになっており、更にそのデータを応用することで竜巻の予測もできる可能性があることを当社従業員が説明しました。

明星電気は、POTEKAが捉える局地的な気象変化の観測データを、社会の安全・安心に貢献できる研究につなげていきます。

(担当:気象防災事業部)



Rainscope(上)と降水粒子の画像

「降水粒子撮像ゾンデRainscope」による線状降水帯集中観測

近年甚大な災害をもたらしている線状降水帯のメカニズム解明に向け、気象庁気象研究所が全国の大学および研究機関と連携し、九州を中心とした西日本で集中観測を実施しました。その観測において、当社の降水粒子撮像ゾンデRainscopeが用いられました。

Rainscopeは、筐体内部にカメラが搭載されており、大気導入口を通過する直径0.5mm程度の降水粒子を撮影し、撮影された画像から降水粒子の形状や粒径を解析することが可能です。また、2つの赤外線センサから降水粒子の落下速度も計測できます。線状降水帯の発生・停滞・維持などのメカニズムの解明にRainscopeが役立ちます。

明星電気の高層気象観測技術が、線状降水帯の発生予測精度向上に貢献しています。

(担当:気象防災事業部)



キャンパス内に設置したPOTEKA

専修大学 POTEKAの気象データを活用

専修大学では、昨年8月よりキャンパス内でPOTEKAによる気象観測を開始しました。同大学の文学部 環境地理学科の調査実習において、キャンパス周辺の気象観測を行い、当日の気象条件の解析などのためにPOTEKAの気象データを使用しています。また、豪雨や猛暑日にはPOTEKAの気象データを教材として活用しています。

環境地理学科では、公式Twitterを通じてさまざまな情報を発信しており、先日も同大学のリアルタイム気象データがPOTEKA NETで閲覧できるとツイートされました。

明星電気は、知りたい場所のデータをリアルタイムで確認できるPOTEKAを用いて、皆さまに役立つ気象情報を提供していきます。

(担当:気象防災事業部)

【文中:敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。